

胃炎、胃潰瘍の原因の一つとして、ピロリ菌の感染が考えられます。胃の不快感が長引いている場合や、胃炎や胃潰瘍などを起こしやすい人は、ピロリ菌に感染しているかもしれません。今回は、ピロリ菌について紹介します。

ピロリ菌とは？



- ピロリ菌（ヘリコバクター・ピロリ）は、らせん形で胃粘膜の中に生息する菌です。これまでの、胃の中は強い酸性に保たれているため、生物は住み着くことができないと考えられていました。しかし、ピロリ菌は**ウレアーゼという物質を出すことにより胃の中にある尿素からアンモニアを作り出して胃酸を中和することにより**、胃の中でも生息できます。

ピロリ菌の感染経路は？



- ピロリ菌がどのような経路で、いつ人の胃に入り込むのかについてはまだはっきりと分かっていません。
- 大部分は飲み水や食べ物を通じて、人の口から体内に入ると考えられています。
- ピロリ菌は、ほとんどが5歳以下の幼児期に感染すると言われています。幼児期の胃の中は酸性が弱く、ピロリ菌が生き延びやすいためです。最近では、母から子へなどの家庭内感染が疑われていますので、ピロリ菌に感染している大人から子どもへの食べ物の口移しなどには注意が必要です。

ピロリ菌に感染すると



- ピロリ菌に感染したからといって必ず胃潰瘍などが発症するわけではありませんが、ピロリ菌が胃を守っている粘膜を傷つけて胃酸の攻撃を受けやすくしてしまうため、胃炎や胃潰瘍を発症させる要因になります。また、胃炎や胃潰瘍を発症した人の多くがピロリ菌に感染していることがわかっています。

ピロリ菌の検査



- 胃潰瘍や十二指腸潰瘍の再発をくり返す方などは、健康保険で検査を受けることができます。検査方法には、以下のような検査があります。
 - ★ 鏡検法
 - ★ 尿素呼気試験（UBT）
 - ★ 血清、尿抗体検査
 - ★ 糞便抗原検査

● ピロリ菌の除菌について

- 胃潰瘍または十二指腸潰瘍と診断されたり内視鏡検査で胃炎と診断された人で、ピロリ菌の感染が確認された場合、健康保険を使ってピロリ菌の除菌療法を受けることができます。
- ピロリ菌の除菌療法は、2種類の「抗菌薬」と「胃酸の分泌を抑える薬」の合計3剤を一緒に服用します。1日2回、7日間服用する治療法です。

一次治療

胃酸の分泌を
抑える薬

+ アモキシシリン
+ クラリスロマイシン

- 7日間服用したあと、完全にピロリ菌が除菌されたかどうかの判定を行います。約70%の人は除菌に成功すると言われています。除菌が成功した場合はピロリ菌の再感染率は低い(2~3%)と報告されていますが、胃癌や胃炎の原因はピロリ菌だけではありません。除菌後も胃癌が発見されるなどの報告もありますので、定期的に検査をしていく必要があります。一次療法に失敗した場合は、二次療法を行うこともできます。



二次治療

胃酸の分泌を
抑える薬

+ アモキシシリン
+ メトロニダゾール

- 一次除菌のクラリスをフラジール（メトロニダゾール）に替えて、同様に7日間服用します。二次除菌では約8~9割の人が成功します。

● 薬の副作用について

除菌療法を始めると、副作用があらわれることがあります。主な副作用には、**軟便や下痢**があります。他に、食べ物の味がおかしいと感じたり、苦みや金属のような味を感じたなど、**味覚異常**があらわれる人もいます。これらの症状は多くの場合、2~3日でおさまります。

また、**肝臓の機能をあらわす検査値の変動**がみられることや、まれに、**かゆみや発疹など、アレルギー反応**があらわれる人もいますので注意が必要です。

● 二次治療中の飲酒について

二次治療で使用するメトロニダゾールは、アルコールの分解を阻害するために、**腹痛・嘔吐・ほてり**などが現れることがありますので、必ず**禁酒**してください。

気になる症状を感じた場合には、自分の判断で勝手に服用を中止するのではなく、主治医または薬剤師に相談してください。